

ダリアの11～3月出荷作型に適した育苗方法



128穴セル ポット4週間 ポット6週間

写真1 '黒蝶'の定植時の苗質



128穴セル ポット4週間 ポット6週間

写真2 '黒蝶'の定植時の苗質および発根状態

表 育苗方法と生育、切り花品質の関係						
品種	育苗条件	採花開始日 (月/日)	採花本数 (本/株)	到花日数 (日)	切り花長 (cm)	花径 (cm)
黒蝶	128穴セル	11/11	29.5	86.2	100.8	16.5
	ポット4週間	11/ 6	31.8	83.6	101.9	16.5
	ポット6週間	11/15	35.2	79.7	110.8	16.6
熱唱	128穴セル	10/30	29.6	82.7	115.2	13.1
	ポット4週間	11/15	28.0	81.7	132.1	13.6
	ポット6週間	10/30	28.2	78.3	114.5	13.0
熱球	128穴セル	11/20	43.2	72.2	60.7	7.1
	ポット4週間	11/13	40.0	72.8	64.5	7.0
	ポット6週間	11/13	46.0	73.4	61.9	7.1

注1) 定植日：2013年8月1日、畝幅：150cm、株間：35cm、仕立て方法：1条植え、主枝を4節で摘心し、一次側枝を6節で摘心。株あたり12本の芽が維持されるよう随時摘芽。各区とも栽培条件は同一。

注2) 到花日数は採花から次の採花までの日数。

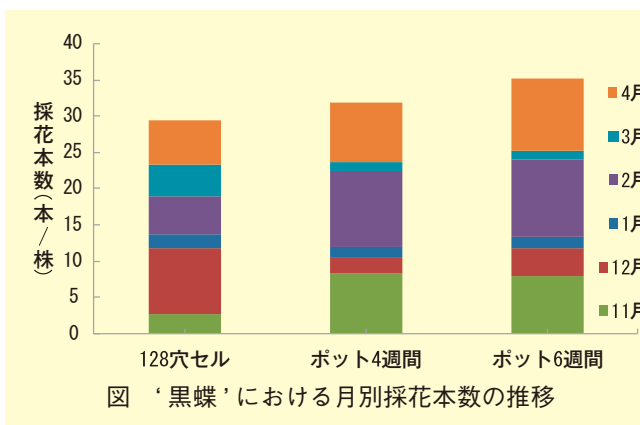


図 '黒蝶'における月別採花本数の推移

県内のダリア生産は平成18年頃に始まり、栽培面積が年々増加しています。経営の安定のためには、単価の良い11～3月に高品質な切り花を安定して生産することが求められています。

ここでは、育苗方法が収量や切り花品質に及ぼす影響について紹介します。

‘黒蝶’、‘熱唱’、‘熱球’の3品種を用い、冷房ハウス内において128穴のセルトレイに挿し芽後3週間育苗したものと、その後9cmポットに鉢上げして4週間あるいは6週間育苗したもの(写真1、2)をいずれも8月1日に定植しました。

その結果、128穴セルトレイで育苗した後ポットに鉢上げして4～6週間育苗すること

で、‘黒蝶’、‘熱球’では、商品として十分な長さの切り花を11月から多く採花することができました(表、図)。

このように挿し芽したセルトレイ苗をポットに鉢上げすることで、長期間育苗でき初期生育の向上が図れることがわかりました。しかし、冷房ハウスを使用できない環境の高温期の挿し芽では、発根や生育が悪い品種もあることから、良質の苗を十分に確保できないことがあります。

今後は、冷房設備を用いずに育苗して8月上旬に定植する育苗方法について検討する予定です。

(花き担当 渋谷淳平 088-863-4918)